

## 令和5年度第1回 滋賀県農村振興交付金制度審議会 会議概要

### 1 開催日時、場所

日時：令和5年(2023年)6月21日(水) 13時30分～14時45分

場所：Web会議（併用：滋賀県庁本館4-A会議室）

### 2 出席委員（五十音順、敬称略）

淡路和則、桂明宏、川崎義明、熊沢初美、中塚雅也、平山奈央子、藤田彩夏、  
三田村美江、吉原康史

### 3 オブザーバー

雲林院智史

### 4 議事録【主な質疑応答】

■議事 令和4年度中山間地域等直接支払交付金の実施状況

#### 【熊沢委員】

今後中山間地域では、例4（資料18右下図）のような取組が増えていくと思う。若い世代の農業スタイルの多様化に伴い、受け入れる地域への準備サポートも必要になることから、ビジネスモデルの取組事例の紹介や地域の受入体制づくりの講座等で情報提供を行い、事前知識を得ていただきたい。補助金を使う、計画を立てる際に新しい視点を持った上で進めていただくために、県の方で情報発信をしてほしい。

#### 【淡路会長】

若者が入ってくるということは、今までその地域で営まれてきた形とは違うものが入り込むということである。そのため情報提供、情報共有はしっかりなされる必要があり、多様性を排除するようなことはあってはならない。

RMOという言葉も出ているが、準備、情報共有、計画というのをできる仕組みを作っていかなければならず、今後の課題として考えていくべきことだと思う。

#### 【吉原委員】

びわこビジターズビューローでは、滋賀ならではの、今まで観光で取り扱ってこなかった素材等々を県外の方を中心に体験していただくことで滋賀の魅力を知っていただいて、滋賀への来訪を増やす、シガリズム体験という取組を行っている。

日帰り旅行から宿泊旅行に、そして長期間の旅行に、さらにはその定着化ということによって今後実現できれば素晴らしいと思う。

#### 【淡路会長】

特にちょうど1年前に世界農業遺産に琵琶湖システムが登録され、それもひとつの期待できる柱になると思う。滋賀ならではの人を引きつける魅力作り、それによって人が来て滋賀を満喫していただいて関係人口を増やす。さらにはここに住んでいただくというよう

な流れができるといいと思う。

#### 【桂委員】

3点教えていただきたい。

滋賀県の協定面積が第5期に入り増えていっているグラフ(資料9)、とても素晴らしい取り組みをされているのだと思う。中山間地域の農家の人たちは5年ごとに加齢をしているので、協定が持ちこたえられなくなってきている面もあり、私が住む京都はこんなふうには増えていないと思う。

1点目は、滋賀県でこれだけ面積を増やしている理由、秘訣について聞きたい。

2点目は、配分のあり方が市町によって差がある。栗東のように個人配分が割合として多い市や逆に100%共同だという市町もある。この差はどこから生じてきているのか教えていただきたい。

3点目は、書類を作る作業が結構大変だと聞いているので、それを外部委託や他の機関に任せているような集落はあるのかということを知りたい。

#### 【事務局】

1点目の中山間直払の取組の増加について、一般的には制度の緩和、返還規定等が緩和されたことによって取組が増えたところはあるが、滋賀県の特別的な理由としては、令和3年度に高島市で棚田サミットが開催されたので、それに向けた準備段階のところ、令和2年、令和3年度、高島市で増えているというところもある。また、大津市も市長の方針転換等によって進められているというところがある。

2点目の個人配分について、こちらは県から特別、共同の割合を増やさない、個人の割合を増やさないという指導はあまりしていない。市町の推進方針に従って、集落もされている。

3点目について、中山間直払では現在のところは、集落協定が事務を委託している例というのはごくわずかで、1例2例しかなかったと思う。

(訂正)

- ・棚田サミットの開催は令和4年度。
- ・交付時事務(書類の作成を含める)を外部に委任しているのは、4集落協定。  
(行政書士、公認会計士:1協定、土地改良区:1協定、個人:1協定、その他:1協定)

#### 【淡路会長】

事務作業は本当に大変だと思う。今後のRMOの中で事務負担が軽減されるような方向に向かえばいい。協定面積が増えたのは非常にいいと思うが、条件を緩和して増えた部分について、本来必要なところで伸びていないということであれば、もう少し点検が必要なのではないかと思う。

#### 【雲林院部長】

中山間地域では獣害対策が重要な課題になっている。防止柵の老朽化による更新等でご苦労いただいている中で、個人の方々も頑張っていていただき、その意味で個人配分も重要な役割を果たしていると思う。

中山間地域、特に山間部は集落営農もまとまらない地域であり、細々と農業をしていた

だいているのが現状であると思う。獣害に悩まされながらも農業を頑張っていた中で、獣害に強い農産物、例えば唐辛子、ズッキーニ、生姜、タラの芽などの生産振興が課題である。

行政等の関係機関が支援をすることにより山間部における農業を振興させることが集落機能を維持する上で大変重要であると思う。

**【淡路会長】**

鳥獣害は深刻なのでこういった事業を使いながら対策するとともに、鳥獣害の被害をこうむることが少ない新たな作物も高齢の方が取り組めるような形で推進していければと思う。これは JA グループさんと県で連携しながら方向付けしていただきたいと思う。